

パラカ 株式会社 様

グループウェアの災害対策としてDataKeeperを採用 ～東京―大阪間データレプリケーション～

日本の駐車場不足を解消し、快適なクルマ社会を実現したいという志のもと、1997年に設立されたパラカ株式会社は、第一号となる貸借駐車場を東京の文京区にオープンしてから、順調に業績を伸ばしてきた。現在は、東京本社に加え大阪と名古屋と福岡に営業所を構え、約50名の社員で全国11,000車室分の駐車場を運営している。同社では、少数精鋭のスタッフによる営業効率の向上と事業ノウハウの継承を目的に、グループウェアを積極的に活用してきた。そのグループウェアのデータベースであるMySQLの情報資産を守るために、DataKeeperを採用した。

Company Information

導入目的

営業効率の向上とデータベースの障害対策

効果

リアルタイムでデータベースをミラー化。障害発生時における復旧作業の向上

会社名

パラカ 株式会社

設立

1997年8月

資本金

15億7,680万円

業種

不動産業

従業員数

約50名



パラカ 株式会社
<http://www.paraca.co.jp>

SYSTEM

システム構成

[OS] Windows Server 2008

[DB] MySQL

[グループウェア] サイボウズガルーン2

[データレプリケーションソフト] DataKeeper



2003年から グループウェアを活用して 営業活動をITでサポート

パラカ株式会社の事業主体となっている貸借駐車場というビジネスは、営業担当者が駐車場として利用できる土地を探し、その所有者と交渉して契約を締結してから、駐車場を構築し運営管理を行う。こうした一連の業務には、豊富な経験と実績が求められてきた。同社では、そうした営業のノウハウをより的確に効率よく社員が共有し活用できるようにする目的で、2003年からグループウェアを導入し、積極的に活用してきた。その利用と課題について、中村氏は次のように説明する。

「例えば、ある営業担当者が駐車場として利用できる土地を見つけたとします。その担当者が、貸借駐車場を運営できるようにするまでには、土地のオーナーへの提案書をはじめとして、収支予測などの経営データを作成し、社内の稟議を取るためには、近隣の情報や地図に登録関係の謄本など、さまざまなデータを収集し管理する必要があります。こうしたデータを一元的に管理して、ワークフローとして担当者から上長への円滑な承認を実現するために、サイボウズオフィスというグループウェアを利用してきました。しかし、当初はスモールスタートで導入したグループウェアが、事業の規模が拡大したことで、能力不足に陥ってきたのです」

2003年に導入したグループウェアは、

スケジュール管理や掲示板などの情報共有を中心とした機能の他に、ワークフローによる承認や決済などの能力も備えていたが、利用するデータは添付ファイルという形で管理されていた。そのため、営業担当者の数が増え、管理する物件も増大すると処理能力に限界が感じられるようになったという。

「処理能力の低下に加え、過去に一度だけハードディスクの障害によって、管理していたデータが失われたことがありました。そのときには、日次で保存していたバックアップのおかげで、前日の状態に復旧させることができましたが、バックアップされていない当日のデータは再入力してもらわなければなりません。こうした事故にも対応するために、データベース障害対策が求められていたのです」と中村氏はDataKeeper導入の背景について語る。

グループウェアの更新に合わせて MySQL対応の データ保護ツールをリサーチ

パラカ株式会社の管理部では、グループウェアをサイボウズオフィスからガルーン2という製品に更新する判断を下すとともに、そのグループウェアで利用しているMySQLに対応したデータ保護ツールのリサーチを行った。その選定の経緯について、岩本氏は次のように振り返る。

「単なるバックアップによる復旧では、

バックアップした時点のデータのみが保存されて入る為、障害発生直前の状態に戻せない場合もあります。そこで、MySQLで利用しているデータベースをリアルタイムでミラー化できるツールをリサーチしました。調べてみると、OracleやSQL Serverに対応したツールは多いのですが、MySQL対応となると意外と限られていました。その中で、信頼性と実績評価が高く、設定・運用が簡単でコストパフォーマンスにも優れている点から、DataKeeperを選定しました」

構築されたシステムは、メインのデータベースを東京のサーバーで稼働し、Bフレッツ経由でIP-VPN接続された大阪のサーバーを予備機として、DataKeeperでリアルタイムにデータの同期を行う構成になった。

「東京のサーバーに障害が発生した場合には、常にデータが大阪のサーバーに同期されているので、最新のデータをすぐに復旧できるようになりました。幸いにも、稼働後に一度もシステムは停止していませんが、常に自動で同期されるようになったので、バックアップを作る手間や一日とか半日前にしか復旧できない、

といった不便さや不満は解消されました」と中村氏は構築したシステムを評価する。

今後はHAクラスターソフト LifeKeeperとの組み合わせによる障害自動検知・復旧や基幹システムでの利用を計画

グループウェアのデータベースに対する可用性をDataKeeperによって高めることに成功したパラカ株式会社の管理部では、次のステップとして基幹システムとして新たに導入するERPのために、LifeKeeperを導入する計画を整えている。

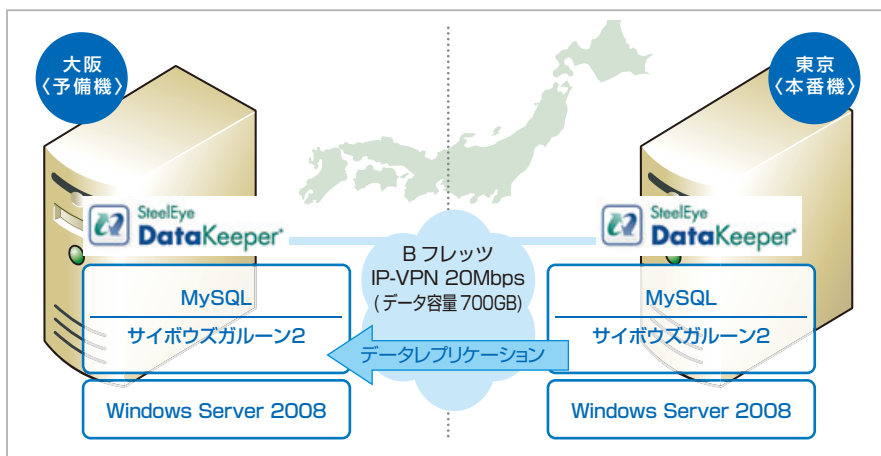
「グループウェアのデータベースは、データだけを同期しておくコールドスタンバイのような運用でも、業務に支障をきたすことはありませんでした。しかし、基幹システムとして利用するERPではデータのリアルタイムでの同期に加え、万が一の障害時にも瞬時に復旧できるホットスタンバイが求められます。DataKeeperを利用した経験から、LifeKeeperは我々の求める要件に応えられると考えています」と中村氏は今後の取り組みと抱負について語った。



パラカ 株式会社
管理部 システムアナリスト
中村 英之氏



パラカ 株式会社
管理部 システムアナリスト
岩本 輝彦氏



■ システム構成図



サイオステクノロジー株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-28 虎ノ門タワーズ Tel. 03-6860-5110 Fax. 03-6860-5135
【問い合わせフォーム】 https://www.sios.com/contact/form-lifekeeper_ssl.html

※すべての商品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。 ※記載されている内容は全て著作権で保護されています。